

いしづち

愛媛労災病院広報紙第4巻第7号

(通巻第37号)

2006年7月5日発行

発行人: 病院長 篠崎文彦

【愛媛労災病院の理念】

当院は働く人々のために、
そして地域の人々のために
信頼される医療を目指します



思いつくままに

薬剤部長 平松 龍磨

この4月に新潟労災病院から転任して来ました。新潟にいる時は、自然災害が多く発生し心が痛みました。新潟の前は、香川労災病院に4年間勤務していましたので、四国はなじみがあり、ある程度知っているつもりでした。しかし探索しているうちに色々な場所を発見し、「四国って広いんだな〜」とつくづく感じました。ちなみに、テレビなどの「動物・自然ドキュメンタリー」でナレーターが「この自然保護区は四国ほどの広さ」という表現をよく使います。それを聞いた時に、「世界はとてつもなく広いんだな〜」と今更ながら驚嘆している次第です。この地方は気候も温暖で、山や海の幸にも恵まれ、生まれ故郷の広島に帰ったような気分です。さて、最近マスコミ(新聞、テレビ等)に薬関係の話題(副作用、相互作用、治験薬、院外処方箋、ジェネリック医薬品、遺伝子治療等)が多く報じられるようになりました。これもひとえに国民の皆様への薬に対する意識の向上にほかならないと思っています。しかし、溢れる情報は、患者様にとって間違っただけで受け止められている場合があります。例えば、ステロイド剤の多岐にわたる副作用を医療従事者以外の人から聞いて怖くなって服用を中止したというのはよく聞く話です。このような行き過ぎた情報を修正するのも薬剤師の仕事の一つです。患者様は医療に対して期待と不安を持っています。色々な情報を得て期待を大きく膨らませ、また不安を少しでも緩和しようとする気持ちは当然のことと思

います。現在、病院薬剤師の業務は大きく変化しています。少し前までは、薬局に引きこもって仕事をしていましたが、現在は、院外処方箋発行に伴い「顔の見える薬剤師」をキャッチフレーズに、病棟へ出向き、入院患者様への服薬指導を行っています。患者様と向き合う時、大切なことは、患者様と同じ目線で、わかりやすく薬の説明を行うことだと思っています。そうすれば、患者様も自然と心を開き、服用後の色々な薬の情報(副作用等)を我々薬剤師に提供してくださるものと確信しております。その情報を医療従事者にフィードバックすることにより、より良い医療が行われることは疑う余地はありません。それから薬物療法は、食事療法、運動療法の上に成り立っていることを忘れないで下さい。例えば、薬だけに頼っている患者様より、心身共に安静を保ち、合理的な食生活をしている患者様の方が、はるかに回復の可能性が大きいといえましょう。薬はどのような場合においても、人間が本来持っている自然な治癒力の補助的役割に過ぎないのですから。次に、全国的に医療事故が多発しています。患者様に「安全で安心」な医療を受けて頂くためにも薬剤部としては、これからも他部門と連携をとり、事故防止対策には積極的に取り組んで行きます。最後に、当院の理念にもありますように薬剤師もチーム医療の一端を担う者として、地域医療に貢献して行きたいと思っています。

医療安全職員研修会で学びえたこと

医療安全管理者 高橋 美保

6月2日、今年度第1回目の医療安全職員研修会が開催されました。今回は、弁護士法人淀屋橋・山上合同より弁護士の水島幸子先生をお迎えし「医療訴訟の現状と課題」というテーマでご講演いただきました。昨年度の職員アンケートで医療訴訟に関する研修を要望する声が高かっただけに、当日は183人の職員の参加がありました。水島先生のパワフルで説得力のある語り口調に私たちは引き込まれ、あっという間に1時間半が過ぎていました。先生の得意分野が医療訴訟で実際に弁護活動に携わっておられるということで、そのお話は具体的であり多くのことを学ぶことができました。私達は医療事故に関する報道を耳にする度に、「なぜ、そんなことに?」、「信じられない」と感じているのではないのでしょうか。当然、医療事故はあってはならないことですが、決してひと事ではありません。今回先生のお話を聞き、何かが起こった(事故)＝訴訟という単純なことではなく、現在の医療紛争の実態や医療事故がおきた場合に私達医療者がどのような責任を負うのか、その責任は何によって問われるのか…など、今まで充分知りえていなかったことを認識することができました。そして安全な医療を提供する為に大切なことは、臨床現場の医療水準を認

識し研鑽することと、患者との信頼関係を築くことであると実感しました。以前より、インフォームド・コンセントの必要性が言われ、あたりまえのこととして捉えられています。この、あたりまえの「十分な説明」や「患者自身の選択」が両者の信頼関係を築き、またリスクの回避にも繋がります。そして更に、職員一人一人のリスク感性を高めヒヤリハットに敏感であること、病院が組織として医療安全に取り組むことが重要です。今回の研修は、「訴訟」という限られた内容にとどまらず、私たちはどうあるべきかという「医療者としての根本的な姿勢」について学ぶことができた意義のある研修会でした。



下肢 MRA

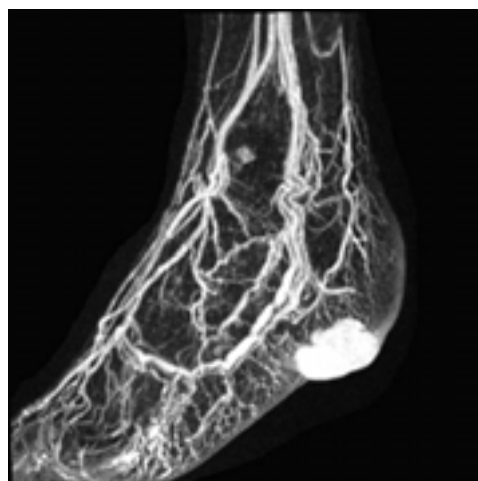
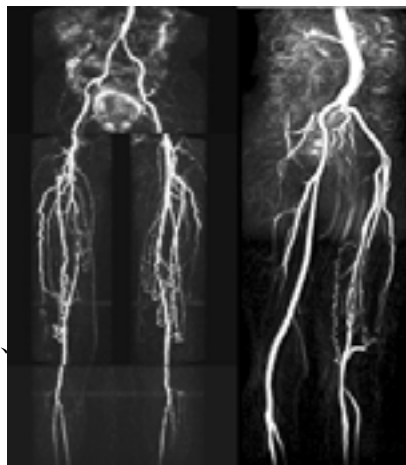
放射線科 森高正人

現在 MRI による下肢動脈の抽出方法の主流は造影剤を使用して行う MR-DSA という方法です。造影剤を使用するというデメリットはありますが、血管の走行方向に関係なく高画質の写真が得られます。ただし強度の血管閉塞等がある場合は造影剤が下肢全域に行きわたらず検査が失敗に終わる事がある欠点もあります。当院では他院に先駆けて非造影で下肢動脈を抽出するフレッシュブルド (NATIVE: メーカーの呼名) という方法を導入いたしました。何分新しい手法ですので文献もなく、さらに被験者の心拍や血流速度により抽出能が異なり試行錯誤の連続でしたが、血管の現れる R 波からの時相に3つのパターンがあることがわかり、最近では下肢全域が最短で15分程度で検査ができるようになりました。利点は高抽出能、造影剤を使用しないので非侵襲であり、さらに強度の狭窄があっても下肢動脈全体像が抽出できることです！写真上右は総検査時間15分程度で抽出した最近の下肢動脈閉塞の画像です。上左は強度の狭窄のため CT で造影したのですが血管が抽出できなかった方の写真です。この程度の検査時間に納まると健診にも利用できそうです。

整形領域ではステッピングの全脊柱撮像が売りますが、他にも脂肪抑制法が大変進化し広い範囲で使用が可能になりました。これにより脊椎の圧迫骨折等は短時間で古いものかフレッシュなものかが判別できます。また膝や肩の検査に使用することで軽度の骨挫傷の有無を簡単に確認できます。また従来では厳しかった

膝の軟骨の抽出に優れたシーケンス (DESS) もあり、ルー

チンでは使用していませんが軟骨の損傷が見たいときには有用なシーケンスです！また手指等をさらに高分解能に撮像するパラメータを作成中です。写真下は足の MR-DSA の写真です。当院の MRI は、まだまだ進化の途中です。新しい領域への進出、また新しい検査方法の開発を現在も行っていますので御期待願います。



愛媛労災病院開院 50 周年

事務局長 高橋 勝美

5月19日(金)、リーガロイヤルホテルに行政、大学、医師会等の関係者約120名をお迎えし、記念式典と祝賀会が執り行われました。

愛媛労災病院は「四国第一の工業都市である、新居浜市にも労災病院の設置を」との強い要望を背景に、昭和31年5月に全国で17番目の労災病院として、この地に誕生しました。当初は、内科、外科、整形外科の3診療科、病床数50床をもって診療を開始しましたが、その後の経済成長及び技術革新に伴う労働災害の増加、あるいは、地域の発展に伴う医療ニーズの変化等に対応すべく、施設の拡充と診療機能の充実に努めて参りました。

昭和61年には、産業構造及び労働環境の変化に伴い多様化する職業性疾患病や、進展する高齢化社会への対応に迫られ、老朽・狭隘化が進んだ建物を一新する5カ年計画での全面的な増改築工事に着手しました。その結果、現在では18診療科、病床数306床の地域の中核病院として発展し、勤労者はもとより地域住民からも、多くの信頼と高い評価を得てきました。これは初代村上徳治院長をはじめとして当院にこれまで在籍した1,600余名にのぼる、職員各位の努力の賜物であります。

後に続く私達は、愛媛労災病院をここまで営々と築き上げて下さった、先達の労苦を無駄にすることなく、この先、さらなる歴史を刻み続けるよう、職員が一丸となって努力しなければなりません。昨今の行財政改革の促進に伴い、政策医療を担いながら、併せて診療報酬の引下げなど、直面する課題の解消を図りつつ、厳しい医療環境の荒波を乗り越えていかなければなりません。今後も、「勤労者医療の推進」と「地域医療の向上」に努め、皆様から、一層信頼される病院作りに邁進したいと考えておりますので、今後とも皆様方のご指導ご支援を心からお願い致します。



図書コーナーを設置して

橋田 真衣

こんにちは。今回は、アメニティ改善委員会の図書グループの活動について報告します。放射線科の山根さんをリーダーに医事課の鴻上さん、会計課の大野さん、近藤師長さん、神野補佐さん、検査室の近藤さん、薬局の橋田の計7人で活動しています。

図書コーナーを設置した目的は、薬局前ホールに長椅子がありますが利用者が少なく広い空間が有効利用されていないこと、患者様の待ち時間に少しでも快適にすごしていただくためです。本棚は看護師の更衣室にあるものを使わせていただきました。車椅子の方もとれるように背が高くないものを3個置き上に雑誌を並べました。本は、以前看護師寮があったときからあるものと図書グループのメンバーの家にある本を持ち寄りました。

置いてある本の種類は、雑誌、文庫、漫画などです。日本糖尿病協会が発行している「さかえ」という雑誌やゴルフの雑誌、物語などいろいろな本を置いているので皆さんも一度見てみてくださいね。私自身も、これ読んでみたいと思う本が何冊かありました。

今後、定期的に本の種類を変えていこうと思っています。

みなさんに本の収集を協力して頂くこともあると思います。もし家で眠っている本、読み終わった本や雑誌があったら図書グループが引き受けますので置いてもらえると助かります。薬局前から時々ぞいてみると、患者様や付き添いの方が本を読んでいる姿を見かけます。少しは役にたっているのかなとうれしく思います。

患者様が少しでも快適に病院で過ごせるようこれからも少しずつ改善していけたらと思っています。



病室をもっと快適に

北4病棟

快適な入院環境の提供を目的に、4月より産婦人科病棟(北館4階)にPSS(パーソナル・スペース・システム)を取り入れた部屋が2部屋(4人室)誕生しました。主に、妊娠中の方、分娩後の方、手術を受けられる方々が入室されています。

患者さまからは好評で、いつもほぼ満室の状態です。「病院じゃなくて家にいる感じで落ち

ち着けます」、「個室のような感じでプライバシーが守られているのがいいですね」、「部屋によりカーテンの色が違うけれど、夏はグリーン、冬はピンクと選べるともつとよいですね」、「部屋が広く感じられて、明るく気持ちがいいです」などの声が聞かれています。

また、看護師からも、木目調のゆったりした空間の中で患者さまと接することで、「よりゆつくりと会話もてる」、「家庭的な雰囲気の中で看護ができる」などの意見がみられています。

療養環境には、快適で家庭的な空間が求められる傾向にあります。そんな中で私たちは、快適で安心できるゆとりの空間と安全安楽な看護を提供できるよう、これからも頑張っていきたいと思えます。

設備の内容

* 特別環境療養室として1日につき1,575円にて提供しています。液晶テレビ、DVD、スタンド型照明、パーソナル冷蔵庫、最新式電動ベッド、パーソナル収納家具



看護週間行事を終えて

看護部 園部ゆかり

5月12日看護の日を迎え、5月13日(土)フジグラン新居浜店において看護週間行事の一環として院外イベントを行いました。「働く人と地域の人々の健康づくり～自分の体を知って、自分で健康を守りましょう～」をテーマに職員ボランティア(医師・薬剤師・栄養士・理学療法士・事務部門・看護師)38名の協力を得て、来店者を対象に健康指標の測定と健康相談を行いました。13時スタートで「いったい何人の方が来てくれるかな？」と不安でしたが、健康についての関心が高いのか、老若男女を問わず会場準備時より列をつくってはじまりました。また、フジグラン新居浜店の担当者から、電話での問い合わせも何件かあったと聞きました。また、今年は初の試みで骨密度測定を行いました。測定の結果が出るのに多少時間がかかりましたが、開始とともに測定を希望する方でコーナーはいっぱいになり大好評。血管年齢が実年齢より高い結果が出た方は、早速相談コーナーを利用していました。測定及び健康相談をうけられたのは、約2時間で126名の方です。今年で4回目となりますが、地域の方々の健康に対する意識の高さがうかがえ、私たちの役割が再認識できた大変貴重な一日となりました。

また、5月9日(火)には、愛媛県立新居浜東高等学校より医療関係・看護専門学校への進学希望の生徒を迎えての「ふれあい看護体験」を行いました。各部署で白衣に着替えて、さあ・患者様のもとへ。最初は緊張していた顔も患者様とのふれあいで徐々に緊張も解けて笑顔が見られるようになりました。懇親会では、「患者様にありがとうと言ってもらえてうれしかった。」「看護師は、やりがいのある仕事です。」「人を相手にするためコミュニケーションが大切だ。」などの声を聞きました。今回の体験参加で、生徒の夢も膨らんだと感じました。ひょっとしたら、何年後には愛媛労災病院の職員として働いているかも・・・。



北 5 病棟

私の仕事

看護師 嶋添 奈保子

わが北 5 は、整形外科のメイン病棟です。20 代から 50 代までのしっかりもののスタッフと、明るく元気な師長と新米補佐の計 18 名で、日々「患者さまのために」をモットーに笑顔でがんばっております。

頸・腰のヘルニア、膝や股関節の人工関節置換、再接着、骨接合などの手術が毎日のように行われています。大汗をかきながらの入浴介助や、やさしく広い心でのリハビリ訓練、相手の気持ちにたった排泄介助などなど看護ケアの充実に努めています。高齢者が多く、自宅より病院のほうがよくなる？患者さまが安心して退院できるよう他部門と連携をとりながら奮闘しています。

いつも活気のある北 5 です。これからもよろしく願いいたします。

平成 5 年に就職し、リハ科、ICU、婦人科、内科病棟を経験してきました。現在の内科病棟は 4 年目で、仕事の流れもつかみ、患者一人一人のニーズに合わせた看護ができるようになりました。最近で印象に残っているエピソードを紹介したいと思います。疾病を受け入れて治療をしている患者さんが、病状の変化に伴い、心も変わってきていました。処置やケアも予定を立てて行ってきましたが、状態によっては拒否されたり不満もきかれました。そこで、患者の思いを受け入れる態勢をとり、訪室を頻回にし、訴えをゆっくり聴ける様配慮することで、安心感を与え、不安の軽減につなげることができました。逆に相談を持ちかけてもらえるようにもなり、患者・家族とともに治療に望めることができました。私は、人と接する仕事がしたいと思って、看護師を選びました。しかし、今まで何度も辞めたいと思ったこともありました。患者さんが喜んでくれたり、退院した後も会いに来てくれたり、本当に良かったと思えることが多かったから、続けることができていると思います。

この 12 年余りの間に私自身の生活も変わりました。結婚、出産、子育てをしながら働いていますが、とにかくゆっくり休めることがないのです。休みの日に予定を立てていれば、誰かが熱をだしたりするので、なかなか自分の時間がとれません。ラッキーなことに祖父母の協力があり、毎晩のおかずをいただいて帰り、お皿に盛りつけていかにも作ったようにおいておく。子供達は、揚げ物よりも煮炊きしたものを好むようになり、たまに私が作ったものは、残されてしまいます。主人は「おいしい」と言い食べているけど、10 年近くだまされている…。

仕事と家庭の両立は難しいけれど、体力が続くまでは好きな仕事をしていきたいと思っています。



愛媛労災病院市民公開講座「健康教室」予定表

会 場 : 愛媛労災病院南館 2 階・大会議室

時 間 : 15 : 00 ~ 16 : 30

回 数	開催年月日	演 題	講 師
第 35 回	H18.07.20 木曜日	プール病について	内科医師 他
第 36 回	H18.09.21 木曜日	産婦人科からのお話	産婦人科医師 他
第 37 回	H18.10.19 木曜日	ウィルス肝炎	内科医師 他
第 38 回	H18.11.16 木曜日	乳ガン	外科医師 他
第 39 回	H18.12.21 木曜日	頻尿・尿失禁	泌尿器科医師 他
第 40 回	H19.01.18 木曜日	膝の痛み	整形外科医師 他

☆ 総務課からのお知らせ

- 人事異動 -

6月20日付退職

北6病棟看護師 伊藤 夏美

6月30日付退職

北5病棟看護師 伊藤 久美子

- 永年勤続表彰者 -

勤続 20年

麻酔科部長 坂本 賢一

看護師長 渡部 雅子

勤続 30年

看護部長 岡本 民子

看護師 真鍋 由美

看護師 八幡 喜久子

医事係長 鴻上 要

主任放射線技師 森高 正人

主任理学療法士 近藤 知津子

地域医療連携室より

だんだん夏の季節になり日々暑くなってきておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、地域医療連携室では「地域医療連携マニュアル」、「愛媛労災病院医師紹介誌」の改訂版が完成しました。今回はマニュアルと紹介誌を1冊にまとめ、利便性を図りました。近隣医療機関の先生方には是非活用して頂ければと考えております。今後も地域医療連携業務が更にスムーズに行えるよう、また患者様に信頼される医療を目指していくことができると存じます。今後ともよろしくお願い致します。

(地域医療連携室 橋本)

研修とこれからの医療

6月13日から4日間、新任の院長研修が国立保健医療科学院の主催で行われた。国立大学病院の院長から国立病院、労災病院、日赤、済生会、各自治体病院の院長など約60名が受講した。オリエンテーションの後医療の現状と課題、病院経営環境の変化と経営戦略の策定、医療安全と法律、経営管理とリーダーシップ、財務管理、患者の安全管理、医療の質とガバナンス、患者満足度、その他盛り沢山の内容であった。自分の病院の現状と照らし合わせてどう改善して行くかが大きな課題であるが恐らくこの病院もできそうもないことが多くため息ばかりであった。やはり医師

平成 18 年度七夕祭り行事

七夕飾り

期間: 6月29日(木)～7月7日(金)

場所: 1階玄関ホール

概要: 七夕飾り

入院・外来患者様の短冊書き

七夕コンサート

日時: 7月7日(金) 16:00～17:00

場所: 1階薬局前ホール

概要: 音楽教室教師によるサクソ・キーボード演奏

☆ 物品管理委員会からのお知らせ

- 新規申請品 -

商品名	スワブスティックヘキシジン (外用消毒剤)
メーカー	スズケン
申請部署	感染対策委員会

商品名	テルモシリンジ (ロック付シリンジ)
メーカー	テルモ
申請部署	人工透析室

不足、看護師不足は大変なもので地方の病院ほど深刻のようであった。

小泉政権は郵政民営化と医療費削減を最重要課題として先日改正医療法が、国民も医療を行うわれわれも深く知らぬ間に国会を通過した。政府の方針として今後慢性期の病院(療養病床、介護老人施設)は1,000～2,000がつぶれ、急性期病院は500～1,000がなくなっていくという。病院や施設をつぶして医療費を削減して行く事が本当に正しいことか、5年後、10年後は大問題になるような気がする。

(篠崎 文彦)

編集後記

6月1～12日Pakistanに海外巡回健康相談に行ってきました。知らないもの同士も12日間の間にすっかり仲良くなり、楽しく過ごさせていただきました。乗り込んだパキスタン航空の飛行機はもうパキスタンの香り。初めての面々は少し閉口し、緊張しながら行程がスタート。健康相談を行っての経験もさることながら、発展途上の異国へ行くにつづく思うのは、日本は本当に良いところだということです。水はきれいで、自然は美しく、日々の暮

らしは衛生的。おおかたの人々は勤勉で皆優しい。当たり前の日常をこんな風感じたことは今までありませんでした。日本に生まれてきてよかった。でもPakistanの人々にとってはそこが大切な祖国であり、日本を良いと思うかと言えばそうではないのかも知れません。路上で物乞いをする母に抱かれた小さな赤ん坊に、「今度は日本に生まれておいでね」と心の中でそっと語りかけました。交通が発展した現在、世界は狭くなりました。飛行機で数時間いけばそこには別世界が広がっています。(A.I.)

広報紙編集メンバー: 病院長(篠崎文彦), 副院長(友澤尚文), 医局(稲見康司, 佐藤晃), 看護部(西村百合枝, 高橋美保, 泉敦子, 山根千春), 総務課(楠本英行, 山内正), 医事課(橋本直子), 薬剤部(大成政揮), 放射線科(正岡憲治), 検査科(阿南孝志), リハ科(小川進太郎), 栄養管理室(清水亮)